

2024（令和6）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和6年7月11日（木）午後2時00分～
- 会 場 春採下町会館
- 出席者 11人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

- （1）都心部のにぎわいづくりについて
- （2）災害時の避難所について

●質疑応答

【参加者A】

先日、商工会議所が中心になって行ったシンポジウムに参加させていただきました。どうも市民の関心と違うことを言うと、司会者が慌てて「やめてください」と言い、おまけに後ろの方から大きなヤジが入りました。ところが次の日の新聞を見ると、皆さん納得していたと何もなかったように報道されました。よく見ると釧路新聞さんも後援に入っている。この間もマイクのスイッチを切って大騒ぎになっていますが、やはりきちんと聞いていただきたい。

この間も言いましたが、いま釧路市民にとって一番大事なことは地震と津波です。この対策をしっかりと市長が先頭となってやっておらず、それで中心市街地、駅前の再開発みたいなこと言っています。これは随分ずれています。大楽毛に行くと大きな防波堤がずっとあって海なんて見えないようなところがありますけれども、中心市街地は津波が来ないのですか。8万人亡くなると言われていますよね。今のままだったら本当にそうなります。

それから、釧路の中心はイオンというお話がありました。どうしてそれがダメなのかということです。なぜすでに人が通らなくなった駅前と言っているのか。やはり駅周辺の地権者の方たちは、この商工会議所の中心になっている方々かもしれないけれど、どうもそこばかり言っている。一体どうなっているのかという思いがあります。まちというのはずいぶん動くものです。どこも最初は宿場町みたいな昔から栄えていたところがあって、新しくできる駅はちょっと離れたところにできます。そしてそのまちな市の街地、中心は駅周辺に移ります。古い宿場町みたいなところは廃れていきます。次に高速道路ができ、新しい商業施設ができてくるとまたそっちの方に住民も移って、人のにぎわいは移ります。鉄道の高架化事業というのは20～30年前から言われてきてあちこちですとやっています。その中で、もともと国鉄時代には請願駅といって、地方自治体が一生懸命になって「お金を出すから駅を作って」と進めたところ地方自治体が借金で大変なことになってしまい、国の機関である国鉄に寄付をしてはならないという法律ができました。ところがその後、人口があまり増えなくなってきて、「鉄道を高架化しなくてはいけないがどうしよう」といったときに新しく知恵出しました。それはまちづくりで、今までは高架化するために国交省と国鉄がお金を

出していました。地方自治体にも出させようとして、「南北通路を自由にしよう」、「まちを一体化しよう」と新しく考え出しました。それで自治体もどんどんお金を出せるようになってしまい、そして高架化しました。今市長がおっしゃったように駅前には広場にしないといけません。やはり道路ばかりでは人のにぎわいが作れないから広場にするのです。ところがほとんどが失敗している。一番囃し立てられたのが宮崎県の日向市です。ここは鉄道高架で立派な駅を作りました。その駅はあちこちから賞をもらうくらいのもので近代的な新幹線も止まる立派な駅です。ところが、周りに広場を作ったのに誰もいない。実は新幹線もできて、中央線も南武線も高架化になってきているから、駅を新しくし、駅前に広場を作るところはたくさんあります。北海道でもすぐ近くの野幌が高架になって立派な駅と広場もできています。それで人が来るように公共施設を作ったりしていますが、誰もいません。だから駅を高架化して広場を作って車を廃止したからにぎわいが戻るなんてことはあり得ないです。ところがイオンみたいな大規模な郊外モールは、アメリカではすでに廃れています。なぜかというAmazonのような通信販売があるから、ものすごい勢いで廃れています。だからこれから日本の郊外モールもやはり大変です。だからその中でどうしたら人口が増えるのかではなくて、釧路のようなところはもっと一つ一つの住環境、家と家との広さ、土地の広さはもっと広くてもいいと思います。駐車場が無いとかではなく、自分の家の車とお客さんの車が入るくらい敷地が広くないといけません。それからそこに隣接した小さい家庭菜園ができるような土地があるといいたけれど、やはり釧路の土地が一つ一つの区割りが狭いです。そして畑が隣接していないでしょう。もっと私は人口が少なくても安心して住めるようにすることは可能だと思います。

基本的に市長が考えていることは企業を誘致すれば良いという考えかもしれないけれど、企業って寿命があります。昔の企業は寿命が長かったけれど、そんなに何十年も100年も続かないです。そうではなく、もっと一人一人が暮らしやすいように、子育てがしやすいようなまちづくりをしなければ長続きしないと思います。企業城下町という、例えば日野市は日野自動車という大きい工場があって、そこで潤っていて、いろいろな福祉政策もできましたが、撤退した今大変なことになっています。そういうまちは全国にたくさんあります。だから企業誘致というよりも幸せに安心して暮らせるようにした方が良いでしょう。

それから保育所の問題です。桜ヶ岡保育所を廃止することになりましたが、1歳児にならなければ預けられないなら保育所の役割を果たさないじゃないですか。産休明けにすぐ入れるようにする、あるいは親が妊娠したらすぐに相談して来年の春から入れるようにする。そういうことをしっかりしなければなりません。釧路は子育てがしにくいと聞きます。そのようなところに企業は集まりません。それからもう一つ、企業は働く場所って言うけれど、働く場所というのは釧路に沢山あるじゃないですか。今言った保育所も看護師も、ほしい企業はたくさんあります。そこを育てなかつたらまずだめですね。

【市長】

たくさんあったので簡単にお話します。まず「市民の思いと違う」ということについて、私はいろいろな場面でお話ししていますが、市民というのは、今の市

民もありますけれども、昔住んでいた人たち、これから生まれてくる子どもも市民と考えています。過去にどういったことをこのまちが取り組んできたのかということと、それを踏まえて現実に今我々がどういった形を望みながら進めているのか、あわせて将来どのようなまちにして、このまちの中で活躍もしくは生活する人たちにつないでいくのかということです。この市民というのは過去と今と未来がありますから、その中でまちづくり、もちろん直近で対応することはたくさんあります。しかしながら、釧路がこれから何十年経った時にどういった取り組みがあったのか、みんなが考えて作っていくのもまちづくりになると思っています。歴代の釧路の取組の中で、様々な生活環境が良くなったことはたくさんあります。今、私が本当にありがたいと思っているのが、実は1980年に釧路が日本で最初にラムサール登録湿地になったことです。当時1970年代に田中角栄が出てきて、列島改造だと言って進めている名残がある中で、自然環境を守ることが評価され、世界中から環境を踏まえた地域だと思われていたことが非常にありがたいと思っています。それともう一つ、昭和63年に釧路公立大学がオープンいたしました。その時に、こんな地方で大学なんて作っても駄目だろうと結構言われていましたが、実績として18歳から22歳までの1400人くらいの学生がこのまちにいるということも本当にありがたいことだと思っています。これはまさに先々のことも踏まえながらの取組であると思っています。ですからまちづくりというのは、将来に向けてある種の基盤を作っていくものだと思っています。

そのうえで津波対策であります。これはもう早急にやらなければいけないことと思っております。2011年の東日本大震災から速やかにいろいろなことに対応しているつもりです。ただベースになったのが、津波がどれだけの高さで来るのかわからなかったことです。これは一昨年3月にどれだけの津波が釧路に押し寄せるかというものが国の中央防災会議で決まりました。その高さを受けて、浸水エリアがどれだけのところに行くのかが北海道の次の作業により決まりました。そこで抜本的な対策ができるということです。その前に対策した市は全国でもありました。確かに避難タワーを作ったところがありました。しかしながら国のシミュレーションの前に対応したことで今使用禁止になっているタワーが日本全国でいくつかあります。やはりきちんとした基準というものができて、それから対応、対策を取っていかうと、私どもは避難困難地域の中で、大楽毛や音別のエリアに協力をいただきながら対策を猛スピードで行っているところです。これはしっかり行っていくということで、まちづくりとこの津波対策はある意味全部並行していると思います。同時にいろいろと進めていくことが必要と思っております。

そしてイオンの方に、今にぎわいがあるからよいのではないかということですが、確かに先ほど、未来永劫の企業はないという発言がありました。私企業というものは、様々な動きがあるということです。ですから私ども公が基盤を作り、その基盤の中で様々ないい環境を作っていくことが、実はこのにぎわいづくりということであり、決して駅を作るとかではなく、環境になります。そのベースを作っていくというふうに考えていますので、ぜひこのところを見て考えていただきたいと思っております。駅を作るために行うわけではありません。次の世代を

踏まえて地盤、基盤をつくっていきたいという思いです。ですから企業誘致優先ではないかということですが、これも真逆です。確かに歴史で見えていくと、昔企業が工場を作ったら何十年も残るといえることがあります。私が道議会議員時代の時、パナソニックが尼崎に工場を作りましたが2年で閉めました。本当に企業というのは必然性が重要です。実は日本製紙も最初釧路来た理由は、豊富な森林があるからです。まさに紙を作るにはパルプ、森林が必要でした。しかしながらどんどん紙は古紙を使うようになっていき、あわせて日本製紙の釧路工場は新聞紙に特化していて、新聞というのは年7%ずつ購買が減っていて、必然性・優位性を失ってきたということです。ですからやはり必然性というか、ここになればだめだということが重要だと思っています。その状況の中で、今この地域にある会社を元気にしようとしているのが k-Biz になります。澄川さんと田辺さんに来ていただいています。この k-Biz の考えというのは、今ここにある会社に今の経済を作ってもらっているということです。例えばどこかの会社を誘致して100人の雇用が増えました。これも良いことだと思います。しかし地元の会社が儲けていただいて、一社当たり一人雇用が増え、それが100社あったら100人の会社持つてくるのと同じという考えです。こういった形の中でビジネスサポートセンターk-Biz は取り組んでおり、おかげさまで5年が過ぎまして、100名以上の雇用を確保していますし、今いろいろな展開も行っているところであります。私も現状を踏まえた中で、そこを何とか盛り上げていくことにあわせて、先ほど言いました、この地域の中で必然性というかこの地域の優位性を活用できることはないかということで当たっていき、先立って新聞にも出ましたけれど日本製紙の跡地の国内トップクラスの木材の製材会社であります。こういったものが誘致を決定していただく中で取り組んでいるということです。ぜひご理解いただきたい。やっぱり企業誘致の必然性、そして長くこういったものがつなげることをベースに考えているということでもあります。あわせて、市民の幸せということをもっと考えていくことが大事なことだと思っています。でもその時にやはり今までどういったことが起きてきたのかということも考えなければいけないと思います。昔幸福度ナンバーワンと言われてすごくニュースに出ていたブータンがありました。皇太子には日本にも来ていただいて、陛下にもお会いして、あの国が最も幸せと考える国ということで、世界の第1位だったわけでごさいます。それが、時間が経って情報化社会になり、今ランキングから完璧に外れました。誰も幸福と思っていないという状況です。つまり幸せというのはもちろん個人の幸せもありますものの、この情報化社会の中では、比較対象が出てくる中で、みんなが誇りをもって働いて様々なことができるなど、こういった地域にすることが私はまちづくりになってくると考えていますので、ぜひこういった観点をしっかり進めて、釧路のエリアの中で、先ほど言いましたように、駅を良くするのではなく、にぎわいのつくれるエリア、人がいっぱい訪れるところを確保することによって、そこが時間とともに発展し充実されてくるイメージを持ちながら進めているプランだということです。

【参加者B】

資料の5ページをちょっと見ていただきたいのですが、タイトルで「車から人

中心の空間づくり」というこの言葉は非常に私にとって新しく、素晴らしいことだと思いました。私どもの時代はもう車社会ですから、すべてどこに行くにしても車ということですが、そうではないということです。まちづくりとして人が歩く空間を今後作っていきたいという考え方はもう素晴らしいことだと思います。将来50年、70年先、まだまだ釧路は発展するのかなというような考え方があります。その中に実は昨日のNHKの夕方のニュースでこんなことを言っていました。全国で一番涼しいまちは北海道の釧路ですというようなニュースがありました。素晴らしいPRだと思いました。これをぜひとも全国的にPRしていけば。特に私も10年くらい東京に勤務していましたが、暑い最中でも高齢者なんか本当に大変でした。せめて夏場だけでも、この涼しい釧路で過ごし、そしておいしいものを食べていただく。このような考え方で進めていることは我々市民に直接伝わってきません。それで、先ほど言ったように、釧路駅を北大通から共栄大通にまっすぐと道を通さないで、曲がりくねった計画、なぜそういう計画をするのかということが、実は今日市長の考えを聞いて、なるほどと思いました。「車は外回り、中は人が歩く」こういう考え方を持てば、なにもまっすぐ直線道路も車道もいらないのかなという考え方に私は変わりました。

それともう一つ、釧路には釧路湿原と阿寒摩周国立公園、要するに二つの観光地がございます。これをもっともっと全国的にPRすることです。住む人間は減るかもしれないけれど、観光で訪れる人間をいかにして増やすことでまちの活性化するという考え方も一つのプランというようなことを今考えつきました。

【市長】

ありがとうございました。本当におっしゃる通り、涼しい釧路のPRを進めて、今は長期滞在の方が北海道の中でも12年ナンバーワンとなっており、さらに展開していこうと、この間、釧路青年会議所と、Airbnb（エアビーアンドビー）という世界中で民泊等をやっている企業と連携しました。例えばホテルやマンションもありませんが、いろいろな民家も今は宿泊という形で結構注目を浴びていて、浦見の毛綱毅曠が作ったふくしま医院があったところも今そういった方々が宿泊できるようにしようとしています。全国的にみるといろいろなところでも家を貸していこうとしています。こういったことを希望する方もたくさんいらっしゃいますので、今まで私ども長期滞在の取組というのは宅建協会、アパート・マンションを持っている方、ホテル、民泊の経営をしている方という形でありましたけれど、さらに進めていければと思います。実際につらかったのが「新しいものを建てればいっぱい受け入れますが、夏だけではなかなか回収できませんよね。365日あるわけだから。」と言われることです。それでも夏の涼しさと花粉のない避粉ということで、花粉症ない季節の方が伸びていないということは、既存の滞在施設を活用をもっと拡大していく必要がありますので、大変良いご提言をいただいたと思っております。このPRとこれを拡大できるよう進めていければと考えているところであります。

あわせてまた国立公園のお話をいただいてありがとうございます。北海道で環境省が国立公園の満喫プロジェクトというものを行い、最初に選ばれたのが阿寒摩周国立公園です。そういった中でいろいろな整備を進めていくものです。国自体も2030年までにしっかりとしたエリアを作っていこうという方針を

示しておりますので、ぜひここにマッチングさせていければと思っています。釧路湿原が国立公園になったのは1987年です。それまで釧路の観光客って200万人くらいだったのが、国立公園になって1～2年だったと記憶していますが、400万人になりました。やはりこういったものが実は多くの方が望んでいることだと思っていますので、この恵まれた自然環境をしっかりと残していきながらPRを進めていき、多くの方に来てもらえるよう努力していきたいと思っています。

【参加者C】

私は北海道に21歳で渡ってきました。今は住所を釧路市に置いて生活していますが、私は、釧路はいいところだと思います。災害が無くて、とても住みやすいところだと思っていますし、いろいろなところでそういうふうに宣伝しています。特に公立大学の子どもたちはよその子どもが多いです。釧路市民は3割くらいでしょうか。あとはみんなよその県から出てきています。子どもたちに「釧路はとてもいいところだよ。釧路に就職をして、釧路で生活をなさいよ」とそんな話をたまにしております。私は釧路が大好きです。

それから先ほど市長から自動車中心というお話があり、そのあとに歩いて暮らすまちづくりの話がありました。私は後期高齢者です。たまたまうちの連町の会長が「横断歩道を作ってくれ」と言ったら警察は「だめだ、何を言っているんだ」との回答でした。もし歩いて暮らすまちづくりをつくるのであれば、本当に高齢者が免許を返納した時に歩いてきちんと生活ができるような環境を作っていただきたい。そういう意味で歩いて暮らすまちづくり、大賛成です。年寄りにとって大歓迎です。一日も早くそんなことを進めていただければありがたいと思っています。

それから感想ですけれども、この前、町内会の諸課題について調査をしてくださいました。たまたま環境部の部長も来られておりますけれども、環境部の方が、ぜひお会いをしてお話をしたいとそんな電話をいただきました。大変ありがたかったです。対面をして対談ができるなんてめったにない事です。ただそのあとが少し良くないです。お話を聞いただけで終わっています。「こんなことで苦しいんですよ」、「住民のため、高齢者のために何とかお願いします」と言いましたが、その返事がまだです。今のところ何も連絡が無いです。もうちょっと頑張っておればありがたいなとそんなことを申し上げて感想やらご意見を話しました。

【市長】

公立大学は、実は本当に地方からの学生が多くて、地元が15%くらいです。全国から来ていただいておまして、そういった意味でその人たちに地元で就職してもらおうと頑張っていますが、まだ11%くらいしかそこに結びついておらず、今一生懸命PRしながら、進めているところでございました。

そして先ほどなかなか横断歩道も作ってくれないというお話がありました。だから大きい形で車中心です。例えば、先ほどアメリカの話をしましたけれど、アメリカモータリゼーションということで、モール型ができました。こういったのが1970年くらいから始まっていましたが、実はヨーロッパは真逆の動き

をしています。びっくりしましたが、1970年から中心部からできるだけ車を外していこうという動きを取っています。11万人の人口どころか6万人の人口で中心地があります。そこは完全に車が乗り入れ禁止になっていまして、一番顕著だったのがドイツです。街なかとか住宅地も同様に、車中心ではないから、例えば交差点や子どもたちの通学路は、交差点があるところに入るためには、車はゆっくり上がらないと行けない作りをしています。初めから人中心でいろいろなまちづくりが行われているということです。利便性という中で日本は経済優先で、これも大事なことです、ドイツのようなところはないです。それでやはり通学路での事故が起っています。ですから本来そういった通路があるところは、スピードを落とさなければならぬとか、通学路は時速何キロにしましょうとかを地域の中で進めていったときには、警察といろいろ相談ができてくると思っています。あわせて、先ほど言ったように車から人中心ですが、公共交通を守っていこうという考え方はしっかり進めていこうと考えておりますので、移動の手段は確保しながら人中心という考え方であります。

【市民環境部長】

町内会を通じていくつかのご質問をいただいていることは承知してございます。エゾシカ対策や、ゴミ出しで困っている単身老人の方へどういった支援ができるかということについていくつかいただいておりますので、この後にお話させていただきたいと思っております。

高齢化が進んでいますので、単身の高齢者はこの町でも増えています。足腰が弱ってきて、ゴミを出すのも難儀しているケースがございまして、今年度4月時点で920件余りの方が対象となっております。この対象となる方の要件というのは、要支援1であったり、障がい者であったり、家族の方がゴミ出ししてくれる世帯の方は外れますけれど、ひとり暮らしで困っている方を対象に、私ども出向いて個別にごみを回収しています。私どもはご相談がありましたら担当課のものが現地に出向きまして、いろいろな土地の形状とかご本人の世帯の状況とかを確認させていただきますので、お困りの方がもし身近にいらっしゃるようでしたら、ごみ収集を担当している環境事業課までご連絡いただければと思います。

【参加者D】

具体的に、ある一定期間釧路に長期滞在した皆さんに、市の財政もありますけれど、航空料金とか宿泊施設の割引制度を作ってPRしたらもっと増えるのではないかと考えています。これは思いつきですけど、冬場も温泉とかワカサギ釣りなどいろいろ思いつくものがあると思いますので、そういうのをPRしながら冬場でも釧路で滞在していただければいかがでしょうか。そのためにはちょっと割高になると思いますので、割引制度を考えてもらえればと思いました。

また、中心街に人を集めるために、市民会館とか良質、善良な市民を集めるのも結構ですが、人間というのは良いところもあれば悪いところもありますので、お酒や女性、おいしい食べ物があれば自然と人間は集まってくると思います。ですから、市が率先してそういうものを作れというわけではありませんが、すすきのがなぜあんなにも流行っているのか、新宿は治安が悪いと言いながら人が集

まってくるのか、そういう面も考えながら、末広繁華街も若干人通りが少なくなってきましたので考えていただきたい。市民会館とか公共施設とかいいものばかり集まっても発展しません。良いところもあれば悪いところもあって、人間というのはその中で循環しながら生きていると思います。だから良いことばかりでも何も面白くないという人もいますし、悪いところがあっても困るので、その辺の兼ね合いもありますけれど、悪いところも若干増えるような末広繁華街を考えていただければ若干人が増えるのではないかと思ったところです。

【市長】

まさしく通年化という形でどういったものを取っていくかという話です。長期滞在は涼しい釧路も含めて充実させるためには、先ほど冬季間の割引ということもあると思います。前はLCCというPeach航空が関空から飛んでいました。一番安くて5千くらいでしたから、関西や伊丹だと5万円かかるものが1万円くらいです。活用をしていましたが、この度のコロナの状況で、今は7～9月の3カ月は運航しますが、まだ通年に至っていないこともありますので、何とかこういったものを活用するなどいろいろあると思います。実はそういった長期滞在を取り扱っている事業者の方々と、この展開をどう持っていくかということでもしっかり相談するとともに、その中に専門家も入れながら進めていくというタイミングになりますので、またいろいろ相談していきながら次の展開に結びつけていきたいと思っています。

そして街の中の、まさに心理学的なお話もいただきました。本当に重要なことです。やはり経済対策の中で、例えば10万円もらったらラッキーだと思ってもらったらいいかもしれないけれど、その10万円を誰も使っていないことです。当たり前です。先々の見通しが無かったら、人はお金を使うわけがないです。ですから、最大の経済対策は将来展望、期待値であると昔からよく言われています。確たる根拠が無くても、期待値があるときに、人はやっぱり明るくなっていきます。もしくは様々な行動を起こします。これは昔から言われていますので、そういった意味では我々としては動くことが大切です。止まっている状況では、他が動いたら衰退し遅れるということです。様々なことに向かって進むことによって、なんとか期待値を高めていければと思っています。もちろんそのためには、いろいろな方々にも相談していきながら、皆さんにご報告し、しっかりご納得をいただきながら進めていくことが重要だと思っていますので、ぜひこの期待値、この地域を高めて頑張っていきたいと思っています。

【参加者E】

まず第一点目は、各町内会でいろいろと諸問題ありまして、その時は直接その問題に応じて市役所に行って話をし、課長や部長、そしてちゃんと市の対応というのを確認したうえで行ったほうが、解決が図れると思います。それで私も空き家問題で、建築指導課の課長にお話を伺って、市役所で市の状況と、市がどこまでできるようになったのかお話しして、解決に至っております。

それから二つ目は、もう2～5年前からずっと釧路市で高架化の問題をいろいろやってきて、素晴らしいなと思いました。車から人中心ということです。これが素晴らしいと思いました。やはり最後は人です。車ではないです。経済が必

要ですから。人をどのようにして集めて、幸せに過ごしていけるかを中心に考えていくということに絞っていることがすごいと思います。今、市ではやらなければならないことはたくさんあります。津波の問題にしても、これからやらなければならないし、繁華街に人を増やして繁栄させなければなりません。しかし、人に視点を絞っていけば道は開けると思います。釧路市はまだまだ発展すると思います。この間の日本製紙跡地についてもお店が来ます。このように企業も少しずつ来ています。観光も来ています。釧路は寒くて涼しいところで人が来ています。だからそれを具体化してもっと来てもらうためにはどうするか市でもっと詰めたほうがいいと思います。だから皆さん悲観しないで、釧路はまだまだ伸びるんだと。これから20年30年、孫とかその時代になっても、釧路は伸びるので悲観しないで前向きな方向で市政にあたってもらいたいなと思います。

三点目はちょっと問題ですが、警察も動きませんでした。1年前コーチャンプオーの前で交通事故がありました。あそこはちょうどバスを降りて高齢者が歩けないところです。それをたまたま知らない根室の人が来てはねました。その後、横断歩道や信号をどうするのかと見ていたら一切何もしません。ということは車社会であれば、人の命がその時に問題になっても、それを過ぎると問題にされなくなる。日本人の一番悪い癖です。それを直さないことには警察もなかなか動かないです。人が死んでも動かないです。横断歩道をちょっと付けて、押しボタン信号を付けて人を渡すように考えればいいのです。遠いバス停が多いです。高齢者は動けません。どうしても近くに歩いていきます。そういう問題点を絞っていけば、もっと安全に、そういう犠牲者がいなくなるのではないかなと思っています。そここのところをもっと絞って検討してもらいたいです。だから行政が警察とタイアップしてやってもらいたいです。極端な事例ですけど道路を見てください。道路見たら標識とかいろいろついていますが、市道にはつきません。漏れているところがたくさんあります。学校は標識がついていても車がたくさん走ります。危ないところがたくさんあります。だから、そういうところを考え、人を中心に物事を進めてもらいたいと思います。

【市長】

まずこういった声をいただくということは市役所にとっても大変ありがたいことだと思っております。こういったお声をいただいたことで、励みになるような形でみんなに紹介しながら進めていきたいと思っております。

あわせまして、釧路が16万人になりましたけど、実は生活圏は根室まで含めます。そうすると30万人という数字になり、実際に市立病院は地方センター病院として、この30万人の方々の急性期、高度医療を担っているということもあります。そう考えていくと、まさにいろいろなことに取り組んでいけば、可能性が出てくると考えておりますので、ここはしっかり考えを示しながら進めていこうと思っています。

あとやはり事故をなくせるように、なんとかならないかと思っています。もう一カ所反対側も不安です。春採湖のところで、コインランドリーのあるところのバス停が見えません。これは本当にどう進めていけばと考えています。私は行政というのはある意味縦割りで、区分け整理しながら進めていくことになりますけれど、この地方自治体は現場だと思っていますので、そういった意味で現場

側として、経験にないことが沢山ありますが、どうできるのか考えながら進めていこうと思っています。本当に横断歩道の件は手間取って大変な状況でありますけれど、しっかりいろいろとお話をしていきたいと思っています。

【参加者D】

ちょっと切実な問題ですが、町内会の役員について、うちの町内会の役員も高齢になり、また病気などいろいろあることから、役員の数が半数くらいになりました。もうあと1、2年くらいは持つか持たないかという状況で、町内会そのものが解散するかもしれないかというところまで来ています。残った問題として街灯があります。町内会で街灯費を集めて維持費もやっていますけれど、町内会を解散したら街灯がなくなります。真っ暗になって不安になります。犯罪も増えるかもしれない。だから街灯費を町内会が解散してなくなった場合は、市のほうで負担するなど市の考えを聞かせていただきたいと思います。

【市長】

街灯というか防犯灯ということになります。きわめて事務的な整理から言いますと、例えば、道路の中でどこかを照明する場合はきちんとしたルールがあります。交差点や橋など見えないと危ないですから照明を設置するというルールがあります。町内会の防犯灯は設置については何のルールもありません。地域の中でここに設置したいと思えば設置できます。それに対して市のほうが80%助成をしながら進めています。皆さまには20%負担いただいています。昔は100%でありましたが、平成17年の財政健全化推進プランの中で議論があり変更されたと受け止めているところであります。そうすると、たくさん設置したところはそのまま残していきましようとなると、この議論がなかなか耐えられないところがでてきます。このことから、防犯灯については、何とか町内会によりしく願いますというのが私どもの立場でございます。その中でできるだけ役員の方々のご負担をかけない方法というのをいろいろご相談したいと思いますし、市役所の中でも職員が町内会の役員になるように頑張っている人もいます。こういったことを進めていきながら、町内会はコミュニティの場ですから残していこうと取り組んでいきたいと思っています。